

団体名：フードバンク北海道ネットワーク

代表者名：山口 幸雄 設立年月…2008年10月

事業規模簿：〇〇万円 ボランティアスタッフ数…3名

取り扱い量：30t

施設配布先：約50施設（不定期含む述べ1300名） 活動地域：全道

住所…北海道上川郡清水町旭山31-86 TEL：0156-63-3009/080-1877-6513

事業概要

当別町の廃校になった校舎を拠点に2008年より石狩郡を中心に活動を行う。現在は十勝に拠点を移し、自宅横の倉庫と近隣関係者の倉庫を活用している。
主に障がい者支援施設・高齢者施設・などの福祉施設へ食品の提供を行う。

ポイント

【キッチン・ウエア・バンク】

代表の山口さんは、キッチン・ウエアバンクという活動を以前から行なっているために、日常的にトラックでキッチン用品の集荷・配送を行なっているためネットワークが軽く、長距離（100km～200km）の配布も難なくこなすことができる。

※ キッチン・ウエア・バンクとは：

⇒地域食堂（地域の絆を作るために開設された食堂）や作業施設や福祉団体や慈善団体に、廃業したホテルやレストランから無料でもらった食器や厨房設備を無償で提供する活動

【災害救援ネットワーク北海道】

同じく、代表の山口さんは、災害支援ネットワーク北海道の代表を務めているので、全国的に災害支援ネットワーク団体の繋がりがあるので、東北大震災での支援では情報や物資集約・配布に多くの協力をしていただいた。

その繋がりにより、他の地域で災害が起きた際には、物資供給先とニーズを的確に2h以内で教えてくれる関係性ができ、食品供給での迅速なバックアップ補助ができています。

取り組みの経緯

第一回フードバンクキャラバンにて北海道で出会う。上記のように全国的にも広く活動されており、とくにキッチン・ウエア・バンクとの親和性が高く、ネットワークと信頼をお持ちで活動を始められた。

活動方針

配布先の最優先は、主に国からの補助金が少なく、運営が厳しい、障がい者支援センター（NPO小規模作業所、授産施設等）、知的障がい者更生施設、量が多い場合は、高齢者施設、経済的に一番大変なところを考えながら、可能な限り地理的に広範囲な場所へお届け出来るようにしている。

タイトル、小見出し：MS ゴシック 16 ポイント

文章：MS 明朝 10 ポイント、英数字 century 10 ポイント

活動事例

【アイヌ民族支援】

北海道を中心に全国に先住民族（アイヌ）の方がいて、その方の生活支援やアイヌ民族の方がいて、その方の向けの生活支援や教室、教育・文化新興の場となっているコミュニティ・センターにも食品提供をしている。アイヌ民族の方々は、生活困窮な方が多いが、地域での支援が少なく役立っているとのこと。

提携食品企業

民間企業からの寄付はなし

セカンドハーベスト・ジャパン（現状では、年に2，3回の直送）

成果と課題

食品が定期的に入ってくれば、ボランティアスタッフや福祉施設の方と活発に連携をし、不定期配送になっている遠方の地域にも幅広く活動を広げていける。

運営資金は、東北大震災支援での寄付や自前の年金を使用しているので、負担のない形でのフードバンク活動が必要となる。